

平成 28 年度三重四川災害対応連絡会 第 1 回雲出川委員会 議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 7 月 27 日（水） 14:45～15:45
- 2 会 場：ホテルグリーンパーク津 6 階木犀の間
- 3 出席者：委員会構成員
津市 前葉泰幸市長
松阪市 竹上真人市長
三重県 県土整備部 施設災害対策課 倉田正明課長
同津建設事務所 里 宏幸所長
同松阪建設事務所 服部喜幸所長
気象庁 津地方气象台 日当智明台長（代理：松木晃一郎防災管理官）
国土交通省 三重河川国道事務所 川村謙一所長
- 4 議 事：1. 平成 27 年 9 月鬼怒川決壊の概要
2. 水防災意識社会再構築ビジョンについて
3. 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
4. 減災のための目標（案）及び取組例について
5. 今後のスケジュールについて
- 5 議事概要
 - ・ 5 年間で達成すべき目標、目標達成に向けた取組について確認し、了解を得た。
[出席者の主な発言]
 - ・ 先ずは何よりもハード対策が地域にとっては非常に重要。雲出川の開口部対策や、実施していただいている危機管理型ハード対策も引き続き整備を進めていただきたい。支川の河道掘削で明らかに水位低下が見られるなど、専門的な立場で的確に判断をしていただいていと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。
 - ・ 避難のあり方検討会では、丁寧なシミュレーション、科学的知見に基づく分析がなされ、的確なサジェスチョンをいただいた。専門的な分析、中部地整災害対策本部の中で出てくる判断なども含め、引き続き市の災対本部にしっかり情報伝達をいただくことで、結果的には住民への避難勧告等がシャープに出せると思っている。
 - ・ 常総市の事例を聞き、課題として感じたのは避難勧告等を夕方以降に出せるかどうか。夜中の 0 時や 1 時に避難指示を発令して、大雨が降っている中で外に出られるかどうか。どの時点で判断するのは本当に悩ましく、いかにしていくかがこれからの課題。
 - ・ 鬼怒川もそうだったように、国交省の排水ポンプ車のお陰で早期に排水が完了した。市民の安全を守ることが最も大事。引き続きご協力をいただきたい。
 - ・ 津波に備える取組をここ 5 年くらい実施しており、浸水予測の水位や時間に関するハザードマップを作成した。受け取る市民は「津波に関しては最悪こうなる」ということが分かるが、河川は少しイメージが違う。あり得べし現象と言うのか、これくらいの雨が降るとこうなる、或いは、上流でこれくらい水位が上がるとこうなるということがクリアーに示せるケースが多いのではないか。過去の経験からするとこうだというイメージを市民は持っているが、なるべく正確に、どういう場面でどうなるということをお知らせすることが重要。あり得べきシナリオ・イメージをしっかりと伝えたい。
 - ・ 関東・東北豪雨でのホットラインの事例があったが、市長は何故こうしているのかという一定の考え方があると思う。气象台の予測などを踏まえてこう考えているんだということを、行政はきちんと市民に伝えていかなければならない。この委員会で、どうやって市民に何を伝えるかということを深掘りしていただけると有り難い。
 - ・ 洪水予報文の改善イメージで「市町村からの避難情報を踏まえ、適切な防災行動をとっ

て下さい」というものがあるが、適切な防災行動って一体何だということになる。夜中に避難指示が出た場合、垂直避難をすることが適切な防災行動ということになるのかもしれないが、市民の理解を得ておかないといけない。

- ・それぞれの地区や個人で、ある程度の避難行動のイメージはあるはずで、なるべく丁寧に広報をしておくことが大切。もっと難しいのが土砂災害。水位は見えるし予測も付くが、土砂災害は土の中のことなのでより分かりにくい。これらについても住民になるべく丁寧に説明することが大切。
- ・中小河川でペンキによる水位表示を実施している。行政にとっては避難勧告等を出しやすいということもあるが、市民にとってもイメージしやすく、結果的に啓発に繋がっている。こういった地道な取組も大切。
- ・ハザードマップを示していくということは防災上非常に大切。破堤した場合にどれくらいで到達するかというようなものができあがっていくと、住民にも理解をしていただける一方で、ハザードマップを出せば出すほど市民から苦情をいただくということも事実。仕方のないことなのかもしれないが、過度な被害想定でどれだけ地価を下げる気かといった話は必ず出てくる。
- ・地震災害や洪水でも逃げ遅れゼロを達成していくということは非常に大事。科学的知見に基づき出される水位情報等は非常に有り難いが、これをいかに共有していくか。例えば消防団に対して、行政がきちんと情報を出せているかどうか。台風時は特に情報が錯綜する。土砂災害も一瞬の出来事なので、いかに事前避難ができるかがポイント。的確に情報共有ができるかが大切。そういった意味でホットラインは非常に心強い。あらゆる意味で更なる情報共有をしていきたい。

以上を踏まえて、連絡会構成員で協力して取組方針をとりまとめていくことを確認した。

以上

(事務局作成)